

後志利別川流域生態系ネットワーク推進協議会 設立趣旨

後志利別川の水系は、北海道南西部を流れる唯一の一級水系であり、「清流日本一」と称される清らかな流れは、狩場山、カニカン岳および長万部岳の原生的な森林から、今金町、せたな町の人里、豊かな漁業の恵みをもたらす沿岸域までをつなぐ流域の「生態系ネットワーク」の基軸であり、サケ・マス類やアユ、カワヤツメをはじめとする多様な生きものの生息・生育・繁殖の場として重要な役割を担っています。後志利別川流域の自然は、人々の暮らしや産業、文化を支えてきました。

しかし近年、人間活動や気候変動による影響などにより、生態系サービスの基盤である生物多様性の劣化が懸念されています。世界では、2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させる「ネイチャーポジティブ」が国際的な共通目標とされました。後志利別川流域においても、流域の自然環境を見つめなおし、後志利別川を泳ぐサクラマスやアユなどの自然の恵みを将来世代へ引き継ぐとともに、さまざまな関連事業との連携も図りながら、広い視野をもって生物多様性を向上させていく取組が必要です。

このため、地域の住民や産業関係団体、学識経験者、関係行政機関等が連携し、流域一体となって後志利別川を基軸とした生態系ネットワークを形成し、豊かな自然環境が地域の愛着とにぎわいの醸成に寄与する好循環の実現を目的として、「後志利別川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立します。